

2012年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量					価 格					輸 入 国							
	漁獲	産地	輸 入	東 京	消費支出 生(%)	在 庫	産 地	輸 入	東 京	消費支出 生(円)	モロ ッコ	モーリ タニア	セネ ガル	タ イ	スペ イン	ベト ナム	中 国	メキ シコ
23	34.9	3.4	38.4	8.3	679	12.2	481	734	898	1,204	5.3	13.6	1.6	1.2	1.9	3.6	9.3	0.3
24	37.3	4.0	47.4	8.6	583	13.6	481	755	936	1,148	6.5	21.4	2.2	1.2	2.9	3.6	7.7	0.4
%	107	117	124	104	86	111	100	103	104	95	123	157	134	99	156	100	83	162

輸 入 の 動 向

24年の輸入量は4.7万トンで前年（3.8万トン）をかなり上回った。これは主力の西アフリカ物（モーリタニア、モロッコ）の増加を反映したものである。

本年の西アフリカでの冬漁は、モロッコでの漁期が前年の11/14～3/31までで、その漁獲枠が2.1万トンで前年（2万トン）並みであった。その配分は、船凍13,230トン（前年：12,600トン）、氷蔵船2,310トン（前年：2,200トン）、ダクラ陸凍壺5,460トン（前年：5,200トン）であった。冬ダコ漁が前年同様不漁でトロールの北部漁場0.2～0.3トン（アソート6番主体）、南部漁場が0.3-0.7トン（7，8番主体）、ツボは例年並みのスタートで前年同様大型（2，3，4番）主体のアソートで、本年も成長が早く大型組成で始まったが、サイズと高値もあって、日本向けのものは少なかった。

夏ダコ漁は前年より15日早い6月5日の解禁で8月4日までの期間であった。漁獲枠は5500トン（前年：7,000トン、前々年：10,000トン）で内船凍3,465トン、氷蔵船605トン、ダクラ陸凍壺1,430トンであった。漁は、壺漁が当初良かったものの時化の影響もあって不安定な漁が続いた。サイズは5番主体に2，3，4番が過半を占めた。トロールは、1日0.6～0.8トンで、良い漁とは言えなかったが、サイズは6番以下が6割程度であった。

モーリタニアの冬ダコ漁は前年の11月16日に壺が解禁（漁期：5月15日まで）で例年の2.5倍の好漁となった。サイズアソートは3，4，5番で半分、6，7，8番で半分であった。

船凍や氷蔵船のトロール漁も前年の12月1日から4月末まで漁が続いた。漁況はそれなりに良く、サイズアソートは6，7，8番主体であった。

夏タコ漁は壺漁が6月15日解禁10月15日まで。トロール船凍と氷蔵船は5，6月の2ヶ月の休漁で、7月1日解禁で9月30日までであった。

漁は壺漁が例年の倍以上の好漁となり、開始当初は150-200トンを記録するなどここ数年の不漁を覆す漁がみられ、その後も1日100トン（前年35トン程度）の漁獲をみた。アソートは当初4，5番主体で大きく、6番は2割以下で少なかったが、徐々に6番サイズが増加した。トロールは1日1～1.5トンとやはり好漁で、サイズは小型主体であった。

夏ダコ漁が久しぶりの豊漁になったが、冬ダコは低調気味で高値搬入が上半期一杯続いたことで、下半期の価格下落がみられたものの、結果的には下落せず昨年よりやや高い価格となった。また、サイズの総じて6番以下が少なかったが、EUの経済危機の深化もあって大型サイズを日本向けに廻ったこともみられた。その結果、輸入価格、消費地価格とも前年をやや上回った。

輸入国は、昨年が続いてモーリタニアが45%で前年（35%）を上回り、モロッコも14%（前年：14%）でモーリタニアの増加が目立った。中国が16%で前年（24%）を大きく下回ったもの

の今年もモロッコより多かった。続いて、ベトナム、スペイン、セネガル、タイとなっている。メキシコも原魚の高騰もあり、大半はEUに流れ、昨年同様今年も日本への搬入は少なかった。

輸入価格は、755円と上半期の高値が反映し、前年（734円）を上回った。

また西アフリカ沖合での漁の不振が続いていたこともあり今年もマダコ、ミズダコ、ヤナギタコ等、国内外のタコ類の供給がみられた。国内産タコ類も海外産の高値の中で今年も総じて堅調な価格推移となった。

在 庫 量

今年の平均在庫量は、1.4万トンと前年（1.2万トン）をやや上回った。

越年在庫は1.4万トンで前年（1.1万トン）をかなり上回り、下半期の搬入増加を受けて近年では最も少ない越年在庫をかなり上回った。上半期は前年の高値を継いだ形での堅調相場が続き消化も思うように進まず、下半期の輸入価格の下落もあったが、在庫は嵩んでいった。この結果が、上述の越年在庫に反映されたものとみられる。

消費地入荷量と価格

24年の東京の入荷量は、0.9万トンで輸入量の増加を反映し、前年（0.8万トン）をやや上回り、消費地での取扱いも再度増加した。

今年も末端マーケットでは特に上半期における価格の高値張り付きもあって特売も少なく、下半期には徐々に特売もみられだしたが、結果的には大きな消化には結びつかなかった。

家庭消費支出は、末端単価も高かったこともあって数量、金額ともに伸びはみられず、今年も引続き顕著に減少した。

東京の価格は、936円で前年（898円）をやや上回り、価格の上昇も目立ち今年もほぼ輸入価格の上昇を反映した格好となった。